



TITLE:

資料6 チンパンジーの粘土遊び: 粘土と他素材の組合わせ(V 共同利用研究 2.研究成果)

AUTHOR(S):

中川, 織江

CITATION:

中川, 織江. 資料6 チンパンジーの粘土遊び: 粘土と他素材の組合わせ(V 共同利用研究 2.研究成果). 霊長類研究所年報 1998, 28: 116-116

ISSUE DATE:

1998-11-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/165076>

RIGHT:

資料6

チンパンジーの粘土遊び
ー粘土と他素材の組み合わせー
中川織江（日本女子大・文・教育）

本年の研究は、昨年度の共同利用研究のデータ不足を補充するものであり、まとめて報告する。

チンパンジーに粘土と他素材（棒、ボウル、ロープ）を呈示した場合、チンパンジーは異なる素材の2種をどのように組み合わせるか検討した。

方法：メスのチンパンジー4個体を被験者として、実験室内に個別に呼び入れ、1996年4月－1997年10月に計28試行、1試行30分間の粘土遊びをおこない、その行動をビデオ撮影と直接観察した。

結果と考察：組み合わせ操作の進展 チンパンジーは、はじめは物と物を単に接触させるだけの、組み合わせとはいえない状態から、やがて短い時間ながらも組み合わせるようになり、さらに一定時間が経過した後に再び組み合わせたりして、最終的にはしっかり組み合わせで操作するまでに進展した（例：塊に突きさした「串だんご」の棒を持って、しゃぶる）。このように、異なる物性2種を呈示した場合、チンパンジーは、自発的に組み合わせようと試行錯誤をおこない、しだいに操作が洗練され組み合わせが堅固になっていくことがわかった。

片手から両手協応への進展 2種の物（A、B）を与えた場合、はじめは「片手でAを持ち、AでBを操作する」というように片手操作のみだった。「片手でA、もう一方の手でBをつかむ」というような両手操作は、終盤になって始めてあらわれた。

このことから、「組み合わせ操作」の場合でも、「塊のみの操作」と同様、片手から両手協応へ進展していくことがわかった。

資料7

霊長類の老人斑および脳血管アミロイド症の病理組織学的検索
中村紳一朗（東京大・農・実験動物）

資料提供をしていただく予定でありましたが、該当材料がなかったため老人斑と脳血管アミロイド症の検索ができませんでした。